

2017年8月6日

【代表談話】広島・長崎の「原爆の日」を迎えるにあたって

民進党代表 蓮 舫

72年前の8月6日、広島において人類史上初めてとなる原子爆弾が使用され、その3日後には、長崎においても同様に原子爆弾が投下され、多大な命が失われました。本年も広島・長崎の「原爆の日」を迎えるにあたり、犠牲となられた方に対し、心からご冥福をお祈りいたします。肉親を亡くされたご遺族の方々、今なお健康被害や心の傷に苦しんでおられる方々に心よりお見舞いを申し上げ、被爆者援護施策の充実に取り組みます。

人類の歴史において、核兵器は二度と使われてはなりません。わが国は唯一の戦争被爆国として、核兵器の使用が如何に非人道的であり、罪なき多くの人々に塗炭の苦しみをもたらすかについて、あらゆる手段を用いて国際社会に訴えかけなければなりません。

本年7月7日に国連で「核兵器禁止条約」が採択されました。「ヒバクシャ」の苦しみが明記され、多くの国が「核兵器なき世界」への決意を示しました。一方で、本条約については、我が国は採択に参加しておらず、核兵器保有国が一国も参加していないなどの課題が残っています。日本が保有国と非保有国との橋渡しの役割を果たせるよう、民進党としても政府の積極的な努力を求めてまいります。

我が国は唯一の戦争被爆国として、核兵器の惨禍を二度と繰り返させないという強い決意を持ち、「核兵器のない世界」の実現に向け、先頭に立って行動していく使命を持っています。

民進党は、北朝鮮の核・ミサイル開発を断固非難し、今後とも核兵器廃絶に向け、米国をはじめとする核兵器保有国に核軍縮・不拡散の重要性を

強く訴え、全力を尽くしていくことをお約束します。また、日本国憲法の
平和主義と非核三原則を堅持することを誓います。

以上